

事業所名

児童発達支援事業所 ノビシロ

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

1日

法人（事業所）理念		1、学ぶ：私たちは、子どもを安全に預かるために、専門知識を学び続けます 2、信頼：私たちは、お互いに思っていることを言葉で伝え合い、信頼関係を築きます 3、予測：私たちは、やりたいことの先に、どんな可能性があるか、予測して行動します 4、冷静：私たちは、問題を客観的に見て1人で対処せず、判断力が高い状態を維持します 5、統一：私たちは、チームワークを大切に、自分の立場を客観的に見て、一貫した姿勢でいます					
支援方針		重度の心身障害および医療的ケアを必要とする子どもを対象とします。言葉などで意思疎通をはかることが難しい子どもに対して、子どもたちが発するサイン（表情やわずかな動き、バイタルサインなど）をくみ取り、必要なケアへ反映させます。それぞれの専門職の知識を生かし、チームで話し合い、一貫した最適なケアを共有します。					
営業時間		9時	0分	17時	30分	送迎実施の有無	あり
		支援内容					
本人支援	健康・生活	基本的な生活習慣を身につける。睡眠や食事、活動などメリハリのある生活をおくりながらも、医療的ケアや休息などは個々の病気や障害などに合わせて行う。また、バイタルサイン測定や健康の観察を行い、異常の早期発見に努める。					
	運動・感覚	様々な五感を使った遊びを取り入れ、感情や感覚を知る機会をつくる。体を動かす遊びでは、個々に応じて介助を行い、自動的・多動的に体を動かす。また、理学療法士によるリハビリを取り入れる。					
	認知・行動	挨拶や声掛け、習慣など、日々の積み重ねにより、人や物事の認知ができるよう支援する。そこから、なんらかの動きや反応などの行動へ反映があるか、観察し、支援する。					
	言語 コミュニケーション	挨拶や声掛けのほか、歌や絵本読みなど、様々な方法で言葉を伝える。そのほか、抱っこや握手などのふれあいを持ち、ゆっくりと感情を伝え合う時間を持つ。個々が発する意思表示を観察し、感情や気持ちを汲み取り、フィードバックし信頼関係をつくる。					
	人間関係 社会性	家庭以外の場所で、自分が安心して過ごせる環境としての事業所を目指す。場所に慣れ、人に慣れる。家族以外の大人や同世代の友人とのふれあいを持つ。子どもが「じぶん」として様々な人と関わりながら、生きていく社会をつくる。					
家族支援		悩みや困りごとに対し、医療や福祉の専門知識を提供し、一緒に解決できるよう取り組む。レスパイト利用できる時間をつくる。			移行支援		病院や保育園など事業所を利用する前や後の施設などと連携をはかり、スムーズにサービスやケアが移行できるようにする。
地域支援・地域連携		地域の図書館や施設へ出かけ、利用してみる。そこで人との関りや交流をもち、地域と共に生きる。			職員の質の向上		研修や資格取得などを業務時間内に行い、スキルアップをはかる。また、それぞれの専門職の知識を共有する。
主な行事等		4月お花見遠足 5月避難訓練 7・8月プール遊び 10月遠足 11月避難訓練 12月クリスマス会 2月バレンタインデークッキング 3月修了・進級式					